サイエンス読書カフェ

店主の独りごと

(第4回



前日本科学技術ジャーナリスト会議会長・元読売新聞編集委員

小出重幸

いうことなんですよ_ 「それはねえ、教養がないって

耳に飛び込んできて、思わず身 新聞記者は社の車で移動

に即応するためですが、ある日 習性があります。新しいユース らしていると、急にこの言葉が の午後、後部座席でうつらうつ 中、ラジオをつけっぱなしにする



京都大学の鎌田浩毅教授

す。

た。 を乗り出したことがありまし

さん。若い女性アナウンサーが 水女子大学教授の藤原正彦 声 ,の主は数学者で、お茶の



るのです。これを教養と の鍛錬なしに決断力は 言いますが、こうした精神

のです。

育たないのです_

落ちました。 さに、そのとおり」と、腑に したが、これを聴いて、「ま 言うなあ、とびっくりしま 最初は乱暴なことを

から、こんなことをうかが 大学でも、苅谷剛彦教授 英国のオクスフォード

いました。

読書が磨 「思索の力

は、社会でリー

英国の大学

ダーとなる人材

答えが、これでした。 それを尋ねた時の藤原さんの ように感じるのはなぜなのか ダーに決断力がなくなっている 首相や政治家ら、日本のリー 藤原さんの解説は続きま

西の古典籍、哲学、歴史、文学 夕には身につきません。古今東 決断力というのは、一朝

めて〈よし、自分ならこう考え

レーションの積み重ねの上に、初 索の跡をたどる、こうしたシミュ

だったら、ヒトラーと対峙する するか。あるいは史記の列伝 老子や荘子を読む、ゲーテの思 チャーチル英首相だったらどう 自分がローマ皇帝カエサルの立場 す、自問を重ねる……例えば、 書を読み漁り、思索を繰り返

ダーとしての判断力、決断力な 教授らとの討論。「3年間の努 での寮生活の中で続けられる 立たないというのです。カレッジ と「歴史」で、これなしには成り 最も重視される教科が「哲学」 を養成するところ。そのために 力の末に身につくものが、リー 化させるためのエッセー執筆と 大量の読書と思索、それを深

> のです」 藤原さんの指摘と同じだった

る〉という判断力ができ

新書を手にとりました 今春、読書に関して2冊の

う行為の先に、人間としての思 佐藤優著)、いずれも、読書とい 毅著)、「読む力」(松岡正剛) を見据えています。 る能力を磨く、こうした努力 戻って自身の考えを構築でき 索の力、ものごとの原点に立ち 「理科系の読書術」(鎌田

と思います。 ずれカフェの参加者と読みたい サイエンス読書カフェのテーマで しめません」という鎌田教授の クスフォードからの警鐘」も、い す。また、刈谷教授の新著「オッ 「理科系の読書術」は、5月の 「教養がなければ、科学は楽



学ジャーナリスト。 年東京生まれ。科 小出重幸(こいでし 1 9 5 1

S) 客員研究員。昭和薬科大学講師。 研究員。政策研究大学院大学(GRIP 卒。元インペリアル・カレッジ・ロンドン客員